

コメント

1. ヘルパンギーナ

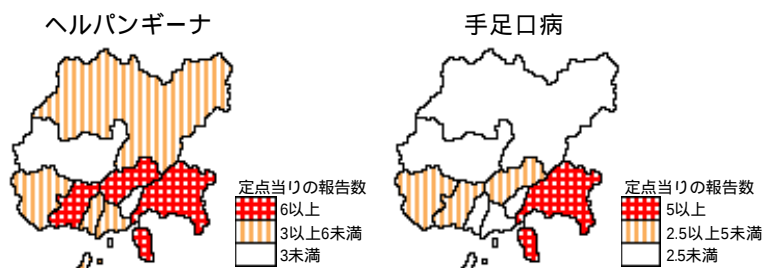
定点当りの報告数は、2週続けてやや減少しましたが、前年同期と比較して多い状態が続いています。特に安芸区30.00人、東区14.67人、西区11.00人となっています。

2. 手足口病

定点当りの報告数は前週よりやや減少しました。安芸区6.00人、西区3.67人、佐伯区3.00人、東区2.67人となっています。

3. 無菌性髄膜炎

第26週から4週続けて報告(定点当り0.43~1.29人)されており、今後の動向が注目されます。



4 類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号	疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号
インフルエンザ	-	-	-		麻疹(注1)	1	0.04	-	
咽頭結膜熱	2	0.08	1.00		流行性耳下腺炎	15	0.63	0.46	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.29	0.54		急性出血性結膜炎	2	0.25	-	
感染性胃腸炎	49	2.04	1.92	→	流行性角結膜炎	17	2.13	2.50	
水痘	22	0.92	0.58	→	急性脳炎(注2)	-	-	-	
手足口病	51	2.13	4.13	↘	細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	22	0.92	0.29	→	無菌性髄膜炎	9	1.29	0.29	
突発性発疹	21	0.88	0.92		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.14	
百日咳	-	-	-		クラミジア肺炎(注3)	1	0.14	-	
風疹	-	-	0.04		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	202	8.42	4.83	↘					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15~2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1~1.5の増減
横ばい	→		殆ど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 成人麻疹を除く
(注2) 日本脳炎を除く
(注3) オウム病を除く

1 類~4 類感染症報告状況 (全数把握対象分)

報告はありません。

4 類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

			成人麻疹 クラミジア肺炎 (注3) マイコプラズマ肺炎 無菌性髄膜炎 細菌性髄膜炎 急性脳炎(注2) 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 流行性耳下腺炎 麻疹(注1) ヘルパンギーナ 風疹 百日咳 突発性発疹 伝染性紅斑 手足口病 水痘 感染性胃腸炎 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 咽頭結膜熱 インフルエンザ																				
報告数	広島市	第27週	-	2	21	40	39	62	35	16	-	-	334	4	28	-	16	-	-	4	2	-	-
		第28週	-	6	23	41	19	75	25	15	-	-	275	7	25	2	12	1	-	4	2	-	-
		第29週	-	2	7	49	22	51	22	21	-	-	202	1	15	2	17	-	-	9	1	1	-
定点当り	広島市	第27週	-	0.08	0.88	1.67	1.63	2.58	1.46	0.67	-	-	13.92	0.17	1.17	-	2.00	-	-	0.57	0.29	-	-
		第28週	-	0.25	0.96	1.71	0.79	3.13	1.04	0.63	-	-	11.46	0.29	1.04	0.25	1.50	0.14	-	0.57	0.29	-	-
		第29週	-	0.08	0.29	2.04	0.92	2.13	0.92	0.88	-	-	8.42	0.04	0.63	0.25	2.13	-	-	1.29	0.14	0.14	-
	広島県	第27週	-	0.25	0.97	2.59	1.49	1.77	0.93	0.91	0.03	0.01	11.28	0.33	1.29	0.05	1.70	-	-	0.19	0.14	-	-
		第28週	0.01	0.48	0.65	2.48	0.72	2.05	0.69	0.64	0.03	0.09	9.12	0.37	1.16	0.20	1.50	0.05	-	0.19	0.10	-	-
		第29週	0.06	0.37	0.88	2.45	1.75	3.31	0.84	0.90	0.01	0.02	6.02	0.30	2.16	0.06	1.66	0.01	0.01	0.08	0.16	0.01	0.07
	全国	第27週	0.04	0.44	0.74	2.41	1.33	3.40	0.72	0.95	0.01	0.02	6.61	0.26	2.21	0.04	1.57	0.01	0.01	0.10	0.17	0.01	0.07
		第28週																					
		第29週																					

(注1)成人麻疹を除く (注2)日本脳炎を除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	住所	発症 年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	3	女	西区	2001/05/30	咽頭拭い液	コクサッキーA16型
ヘルパンギーナ	0	女	安佐南区	2001/06/13	咽頭拭い液	エコーウイルス11型
流行性角結膜炎	54	女	南区	2001/05/30	結膜擦過物	アデノウイルス19型

(参考)

手足口病

口腔粘膜と手、足末端に水疱を生じる疾患である。我が国では昭和40年代前半から流行が明らかとなった比較的新しい子供の疾患である。

病原体 主としてコクサッキーウイルスA16型とエンテロウイルス71型である。

潜伏期間 :2～7日程度

感染経路(発生時期) :主として飛沫感染で、発病初期が感染源となる。しかし、ウイルスは数週間糞便中に排泄されるので経口感染も起こり得る。春から夏にかけて多く発生し、流行のピークは7月ころである。

症状 :発熱と口腔 咽頭粘膜に痛みを伴う水疱ができ、唾液が増え、手、足末端や臀部に水疱がみられるのが特徴。手足の水疱は比較的深いところに生じるので、水痘とちがって皮膚が破れたりかさぶたになることはない。発熱はあまり高くはないことが多く、ふつう1～3日で解熱する。一般的には夏かぜの一つと言える軽い疾患である。ごくまれに、髄膜炎を伴った重症例の報告があるため、医師による経過観察が大切である。

罹患年齢 :乳幼児に多い。原因となる病原ウイルスが複数あるため、再発することもある。

予防方法 :患者との接触を避け、手洗い等の一般的な予防方法の励行が大切である。

文部省 :学校において予防すべき伝染病の解説(学校関係者用)(平成11年3月)から引用、一部改変

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2001年第29週(7月16日～7月22日)